

「晚餐」の二文字に見た誇りと責任

あなたは「バンサン」という漢字が書けますか。レオナルド・ダ・ヴィンチの作品にある「最後のバンサン」の「バンサン」です。もちろんテストには出ません。「サン」の字は常用漢字ではありませんので、書けなくても問題ありません。安心してください。

一昨日の一時間目の授業巡視で二年の三つの学級に入った折、あることに気付きました。その日には三学級とも国語があり、どの学級のホワイトボードの国語の内容欄にも「君は『最後の晚餐』を知っているか」と書かれていたのです。

私の気を引いたのは、「晚餐」の二文字でした。書けなくてもよい熟語ですが、それが一画一画おろそかにしない丁寧な筆跡で書かれています。面倒くさいからそれに近い形の字を書いたり、難しいからひらがなで書いたりしていない点が素晴らしい、と私は思いました。それも三学級ともでした。

巡視後、職員室に戻ると、国語担当のI・S教諭がいましたので、私は早速そのことを彼に報告しました。彼は、満足そうな表情で、うなずきながら私の報告を聞いていました。私も国語科ですので、彼の気もちがわかります。書けなくてもよい漢字ですが、それをあえて漢字で書いていることで、自分の教科が大切にされているような感触があるものです。また、頑張って漢字で書いた国語係の働きぶりにも頼もしさを感じたのだと思います。

あなたの学級では、教科係を何番目に決めましたか。いちばんに決めた学級はあるでしょうか。真っ先に決めたのは、級長、班長といったリーダーではないですか。教科係については、恐らく最後に決めたのではないですか。

その順番が役職の順位だと考えてはいけません。役職の種類が複数あれば、決める順番が生まれるのは仕方ありません。しかし、それが「リーダーがいちばん大切だ」「教科係は残った人がやるものだ」という認識につながっているとしたら、大きな間違いです。その時点で、教科係をおろそかに考えていることになりません。

教科係は、その教科において級長よりも力を発揮し、リーダーシップをとらなければなりません。仲間の前で堂々と語る回数は級長より少ないかもしれませんが、その教科の責任者として、誇りをもって取り組み、責任を全うしなければなりません。その誇りと責任が、ホワイトボードに書かれる内容や筆跡に表れるはずですよ。

今回の「晚餐」の二文字に、その誇りと責任をみつけました。「いい仕事」というのはこういうものです。適当にやろうと思えば、いくらでも手を抜けます。地味で目立たない仕事でも、その道にこだわらなくても取り組めば、形や姿となって必ず出ます。国語は、どちらかというと地味な教科に入るでしょう。しかし私は、国語が教科の中心だと思って三十七年間誇りをもって指導してきました。後悔はありません。今のあなたはどうか。（一月二十八日記）